

ぐるめ散歩

日本料理

かっぱ

割烹玉川

下関産の天然トラフグや静岡産のうなぎが手頃な値段で味わえる新鮮な海の幸を中心とした日本料理店。

ふぐの刺身やから揚げ、ふぐちり、雑炊付きのふぐコースが人気で、本格的なふぐ料理を味わうために遠方から訪れる客もいる。また、重箱を埋めるように大ぶりのうなぎがのったうなぎ重も人気。豊洲市場で自ら仕入れた旬の魚の刺身の盛り合わせ、天ぷら、煮物、スポン、鴨などのメニューが豊



富で、価格も数百円からと

☎3480-1470 岩戸北
4-10-17 営業=午後5時
~ 11時 火曜日休み

新鮮な海の幸を使い豊富なメニュー ふぐとうなぎのセットを安価に



うなぎとふぐ刺しのセット

手頃なものも多い。

店主の久恒信逸さん(67)は、世田谷区のふぐ料理店に生まれ、高校卒業後に実家の店を皮切りに、都心の日本料理店で腕をみがき、昭和57年に現在の場所に店を開いた。例年、9月中旬から1カ月ほど「開店記念」としてふぐコースを安価で提供していたが、

コロナ禍
で2年間
中止。今



か、10人程が座れる座敷があり、妻の千津子さんが接客にあたる。また、冷蔵庫、電子レンジなどが付いたレンタルルームを開設。コース料理を頼めば家族連れやグループで利用できる。

久恒さんは「おいしいふぐや旬の魚をたくさんの人に味わってもらいたいです」と話している。

おすすめMENU

うなぎ重¥3,400 / 天重¥1,500 / ふぐ刺し
¥2,900 / ふぐ唐揚げ¥2,900 / ふぐちり¥2,900
/ ふぐコース¥7,000、すっぽん鍋¥2,700 / 鴨口
コース¥2,000 / 鴨鍋¥2,500 / 本日のおすすめ
刺身の盛り合わせ¥1500 ~ (税込み)

年はそれに替えて、うなぎとふぐ刺しのセットを5,000円で提供する。

カウンターとテーブル2卓のほ

子ども・中高生スペース ウクライナ支援の企画も

「夏休み子ども・中高生スペー

ス」が8月8日(日)から13日(土)の午前10時から午後5時まで中央公民館で開かれ、5日間で延べ約340人の子どもと保護者が利用した。

この催しは「夏休みに同館で様々な学びと体験を」と平成30年度から実施しており、期間中は子どもなどを対象に市民団体が昼食を提供する。今年は8日(日)に子ども食堂を開く予定だったが、同館調理室の空調不良のため、市役所にある食堂「ジャックポット狛江」からカレーライスを取り寄せ、先着50人の親子に提供した。また、子どもたちにおやつのかき氷も提供された。

新型コロナウイルス感染症予防のため、マンガ教室、消しゴムはんこ作りなど体験イベントの多くは事前申込制で行われた。

ロシアのウクライナ侵攻に関連し「ウクライナ 世界平和を願って」をテーマにNPO法人日本ウクライナ友好協会の協力で9日(日)にエッグアート作りを行った。10日(月)にはウクライナの童話劇や歌、遊びの紹介、クイズラリーが催された。会場では、日本の目隠し鬼に似た遊びなどが行われ、日本とウクライナの人たちがなごやかに興じていた。

期間中は学習・遊びのフリースペース、バルーンアートもあり、毎日のように通う子もいた。

夜の道で生演奏楽しむ 9月まで泉の森テラス

狛江駅北口の狛江弁財天池特別緑地保全地区南東側のふれあい側道で

「泉の森テラス」が8月5日(金)から催され、訪れた人たちはビールやワインを手に緑地にある竹林のライトアップを眺めたり、ヴァイオリンやサ



民族衣装でウクライナの歌を披露

ックスの生演奏を聴きながらゆったりとした夕涼み気分を味わっていた。

このイベントは、国土交通省がコロナ禍で苦しむ飲食店を支援す

るため道路でテイクアウトやテラス営業を認める措置を実施したことから、泉の森友の会が令和2年に催して好評だった「泉の森テラス」を再開したもの。側道と狛江駅北口交通広場で市内の飲食店や



ヴァイオリンを演奏する永井さん

酒店、キッチンカーが出店したほか、19日



19日には狛江中学校(現、狛江第一中学校)出身のヴァイオリニスト永井由里さん、20日(月)はサクソ奏者TSUBO-KENさんのライブが行われた。

泉の森テラスは9月30日(土)まで毎週金曜日から日曜日と祝日の夕方に催される。主催者は「駅前の自然と生演奏をたくさんの人に味わってもらい、『音楽の街-狛江』にふさわしいイベントにしていきたい」と話している。

市内6神社の秋祭り 3年連続で中止決定

市内にある6つの神社すべてが、新型コロナウイルス感染症収束の見通しがたかないとして、今年も神事を除く秋祭りの中止を決めた。中止は3年連続。

各神社の氏子総代などが協議した結果、参拝者の健康を第一に考慮して、太鼓や山車、みこしなどの巡行、出店、演芸・歌謡ショーなどを取り止め、最も重要な氏子万民の安泰繁栄を祈願する神事のみを行うことにした。また、奉納受付は各神社とも設置する。

狛江平和都市宣言が40年

感染対策施しこまえ平和フェスティバル

こまえ平和フェスタ2022(同実行委員会主催、狛江市、狛江市教育委員会など後援)が8月21日(日)午後2時から西河原公民館で3年ぶりに観客を入れて開催された。新型コロナウイルス感染症の感染対策として、参加を事前申込制にするとともに、オンラインで配信、松原俊雄市長と谷田部一之市議会議長の挨拶はビデオメッセージにした。会場には約100人が参加したほか、延べ約300人がオンラインで視聴した。

ロシアによるウクライナの侵攻で核戦争の危機が高まっている中で、元広島市長の秋葉忠利さんが「戦争も核兵器もない世界へ〜市

民からの声と行動を〜」と題してオンラインで講演、市民が平和に向けてすぐにできることをする大切さを訴えた。

また、昭和57年に制定され、今年で40年を迎えた狛江平和都市宣言にちなんで、広島市の「黒い雨」について研究してきた市内在住の気象学者増田善信さんの戦争末期の体験を元にした朗読劇「天気予報が消えた日」が披露された。平和都市宣言10年を記念して平成4年に市内の小中学生を対象に実施された平和作文の優秀賞を受賞したニューヨーク在住の西川(旧姓・黒田)美喜さんによる「平和作文



平和を願い全員で合唱

の頃、そしてアメリカにいて」のスピーチをオンラインで配信した。宣言制定当時の様子について矢野裕元市長がメッセージを寄せた。

狛江ぞうれっしゃ合唱団や調布狛江合唱団による広島の原爆を題材にした合唱曲に続いて、会場全員で狛江市平和都市宣言を読み上げた。

西河原公民館ロビーと中央公民館のショーケースでは平和をテーマに市民が創作した絵手紙や短歌、俳句などに加え、平和作文の受賞者3人のインタビューが展示された。